



マーケット動向： 2022年6月20日から6月24日までの動向

◀ 主要国 ▶

	過去3か月の推移	6月20日~6月24日		6月24日	前週比		先週の動き	
		高値	安値		騰落幅	騰落率		
株 価	日経平均株価		26,519.16	25,520.23	26,491.97	+ 528.97	+ 2.0%	米連邦準備理事会 (FRB) などによる金融引締めが世界景気の減速につながるとの懸念は重しも、値ごろ感からの買いや、米株の持ち直しなどを受け、国内株はしっかり。米株は、パウエルFRB議長の議会証言を無難に通過したことや長期金利低下を受け、上昇。
	JPX日経400		16,804.76	16,241.06	16,785.71	+ 277.56	+ 1.7%	
	NYダウ		31,517.29	30,074.69	31,500.68	+ 1,611.90	+ 5.4%	
	ドイツ DAX指数		13,443.77	12,904.86	13,118.13	- 8.13	- 0.1%	

(変化幅、%)

国 債 利 回 り	日本 (10年)		0.235	0.220	0.220	+ 0.010	前週末に日銀が強力な金融緩和を堅持したことを受け、国内の10年債利回り(長期金利)は0.2%台前半での狭いレンジでの動きが継続。米10年債利回りは、景気減速懸念が広がる中、欧米景気の減速を示す経済統計の発表を受け、一時3.0%まで低下。
	米国 (10年)		3.313	3.002	3.130	- 0.095	
	ドイツ (10年)		1.792	1.355	1.442	- 0.219	
	豪州 (10年)		4.160	3.678	3.719	- 0.411	

(騰落幅、円)

為 替 (対 円)	ドル		136.71	134.27	135.23	+ 0.21	日米の金融政策の方向性の違いを意識した円売り・ドル買いが優勢になり、ドル円は一時136円台後半と、1998年10月以来の水準まで上昇。ただ、その後は米長期金利低下などを受け、135円台に戻る動きに。ユーロは金融引締め観測からしっかり。
	ユーロ		144.25	141.25	142.79	+ 1.09	
	豪ドル		95.33	92.65	93.90	+ 0.29	
	カナダドル		105.85	103.45	104.92	+ 1.06	

(騰落幅) (騰落率)

そ の 他	東証REIT指数		1,935.48	1,892.52	1,914.46	- 8.83	- 0.5%	東証REIT指数は、一進一退の中、やや売りに押される動き。ただ、1,900ポイントを下回ると押し買いが入り、終値では1,900を割り込まず。先週末の分配利回りは3.814%(東証上場REITの予想分配利回り、QUICK算出)。NY原油は景気懸念が重し。
	海外リート指数		288.80	274.95	288.80	+ 14.18	+ 5.2%	
	NY原油		111.16	101.53	107.62	- 0.37	- 0.3%	
	NY金		1,850.30	1,817.70	1,830.30	- 10.30	- 0.6%	

◀ アジア ▶

	株価	過去3か月の推移	前週比	先週の動き	為替(対円)	前週比
中国	上海総合指数		+ 1.0%	大規模な景気対策への期待などを受け、上昇。	人民元	+ 0.6%
香港	ハンセン指数		+ 3.1%	規制緩和期待などで、テクノロジー株などが上昇。	香港ドル	+ 0.2%
台湾	加権指数		- 2.2%	米国の金融引締めに対する警戒感などから、下落。	台湾ドル	+ 0.2%
韓国	総合株価指数		- 3.0%	米国景気の減速懸念などを背景に、下落。	韓国ウォン	- 0.7%
インド	SENSEX指数		+ 2.7%	資源高が和らぐ動きが好感される中、上昇。	インドルピー	- 0.2%
シンガポール	ST指数		+ 0.4%	中国景気の回復期待が拡大しており、上昇。	シンガポールドル	+ 0.5%
マレーシア	KLCIインデックス		- 1.4%	主要産品であるパーム油相場が軟調となり、下落。	マレーシアリンギット	+ 0.1%
インドネシア	ジャカルタ総合指数		+ 1.5%	米国株の反発を受けて安心感が広がり、上昇。	インドネシアルピア	+ 0.0%
タイ	SET指数		+ 0.6%	観光業の回復期待が優勢となる中、上昇。	タイバーツ	- 0.6%
フィリピン	総合指数		- 1.8%	東南アジアでも利上げが進むとの観測で、下落。	フィリピンペソ	- 2.1%
ベトナム	VN指数		- 2.6%	世界景気をめぐる不透明感などを背景に、下落。	ベトナムドン	+ 0.1%

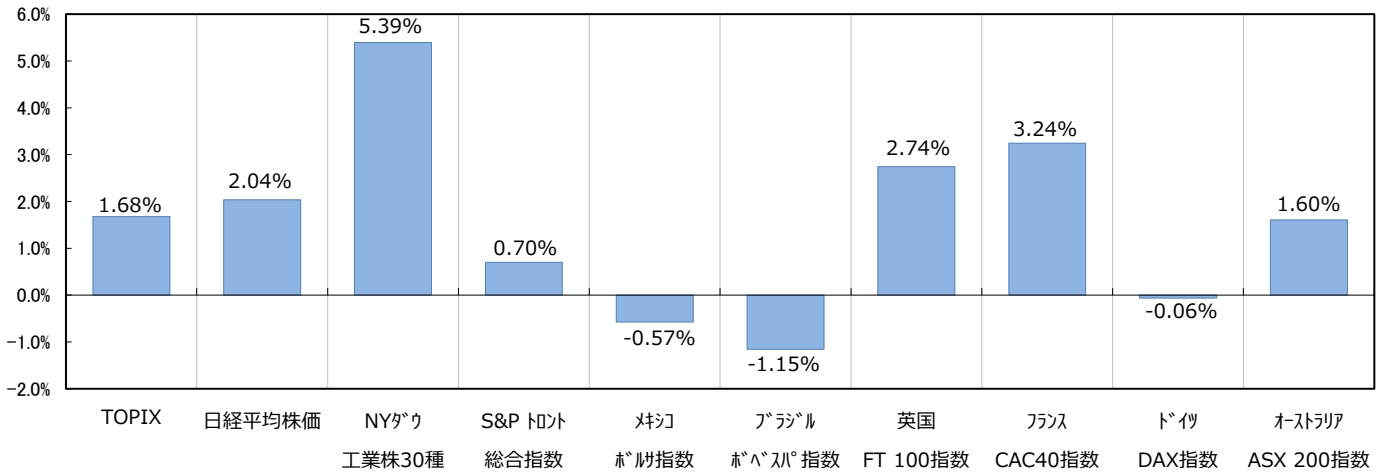
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用。海外リートはS&P先進国REIT指数(日本を除く、円ベース)。高値、安値については、海外リートは終値、その他はザラ場ベース
 NY原油はニューヨーク商業取引所(NYMEX)のWTI先物。NY金はニューヨーク商業取引所(NYMEX)COMEX部門の金先物
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

I. 株価

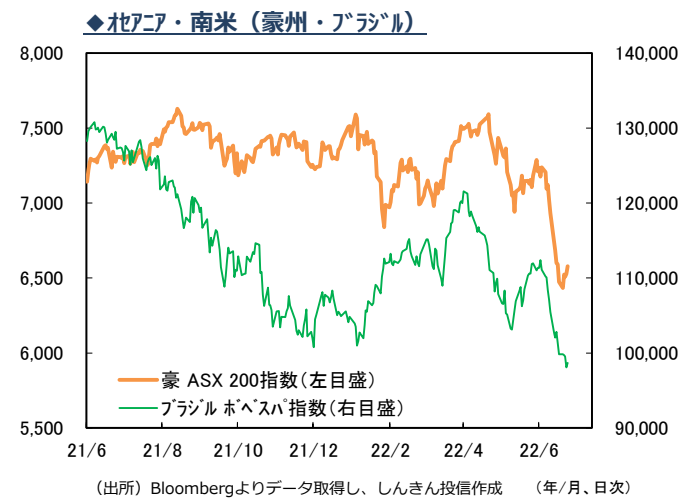
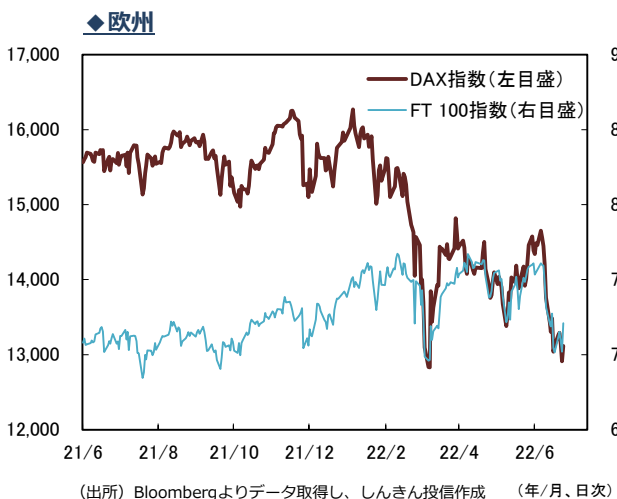
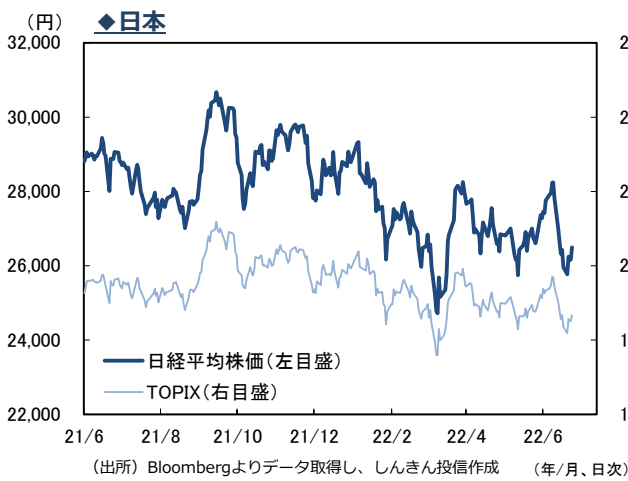
1. 各国の株価指数（騰落率）

騰落率(2022/6/17→2022/6/24)



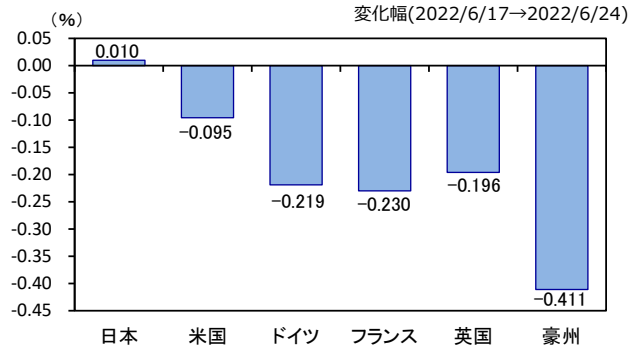
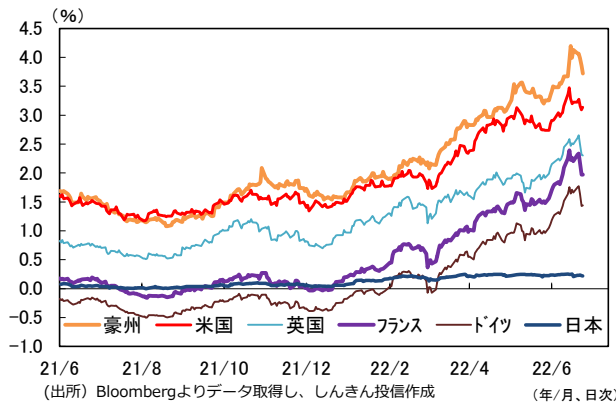
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

2. 各国の株価推移

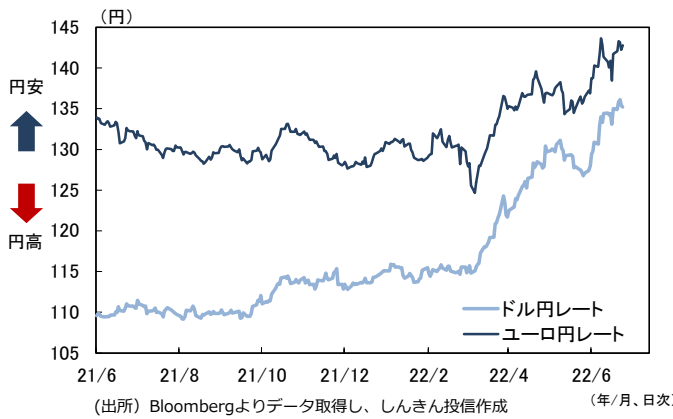


Ⅱ. 債券・為替

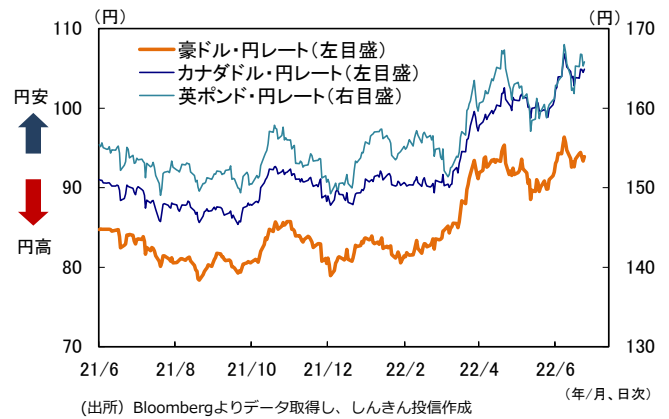
1. 主要国の10年債利回り



2. ドル円、ユーロ円

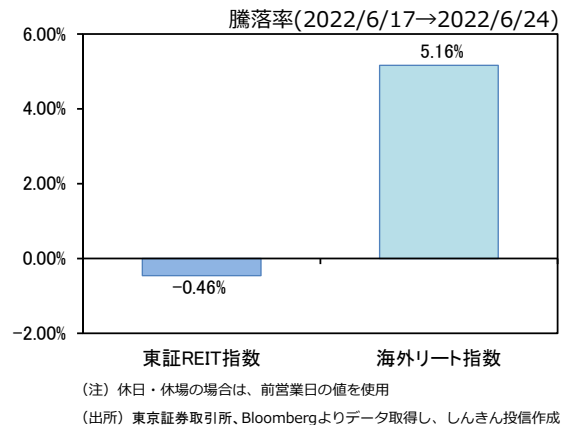
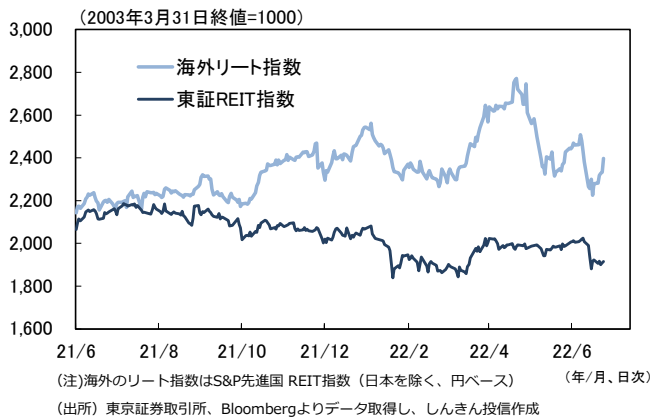


3. 豪ドル・円、英ポンド・円、カナダドル・円

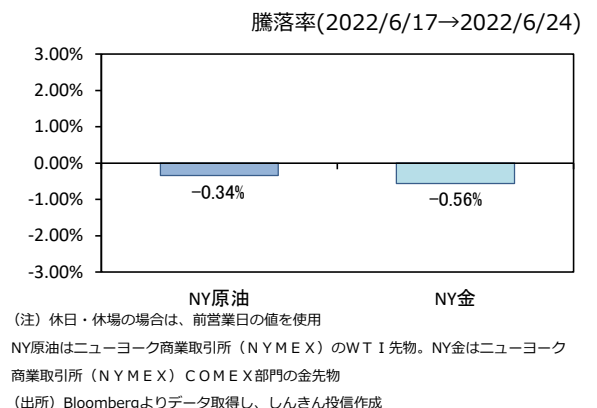


Ⅲ. リート・商品

1. 日本と海外のリート市場

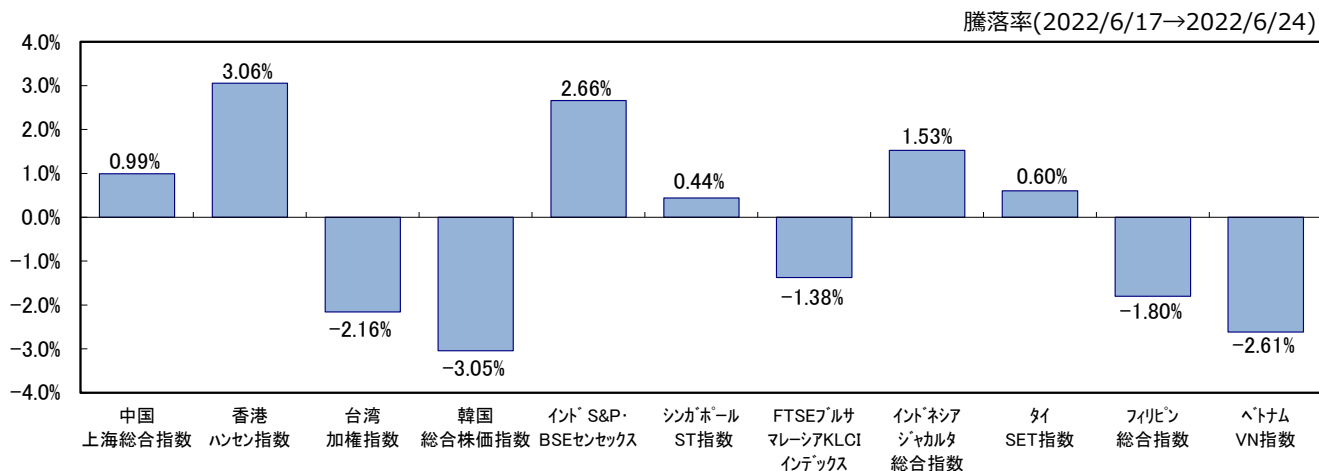


2. 原油、金



IV. アジア株

1. アジアの株価指数（騰落率）

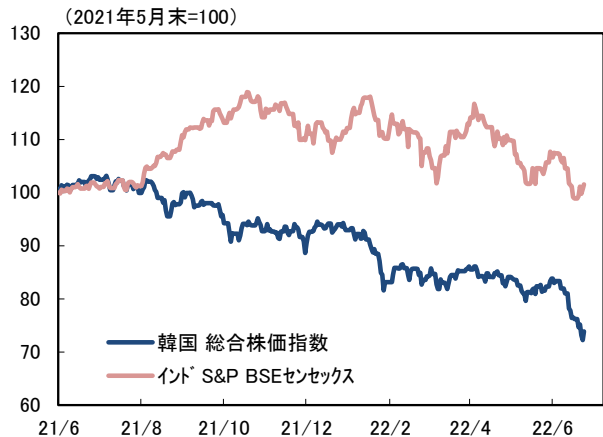


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

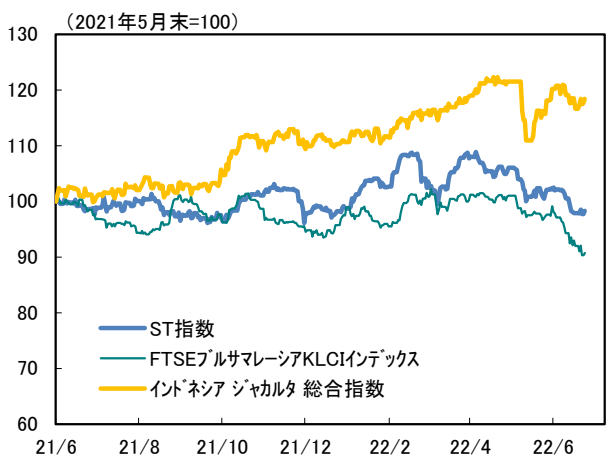
2. アジア株の推移



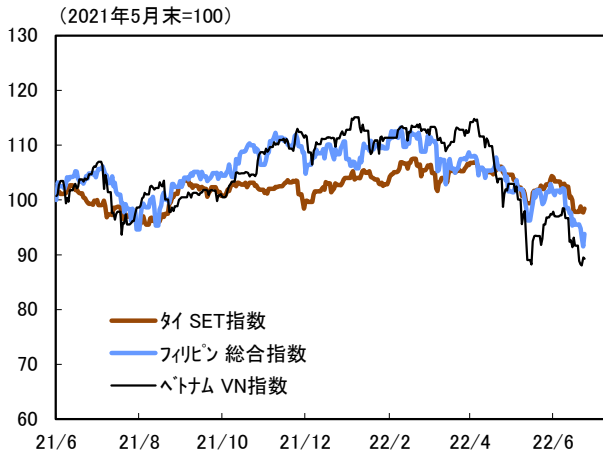
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

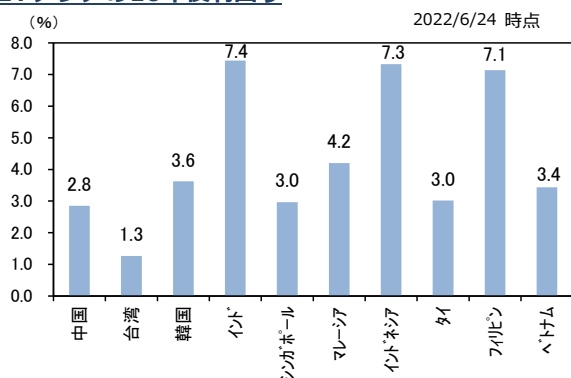


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用 (年/月、日次)
 (出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

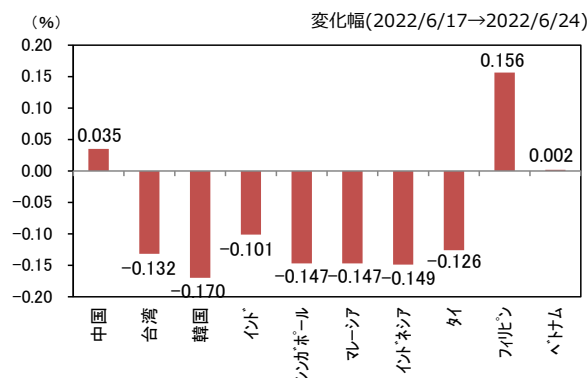
※ 最終頁の「本資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご確認ください。

V. アジア長期金利と政策金利

1. アジアの10年債利回り

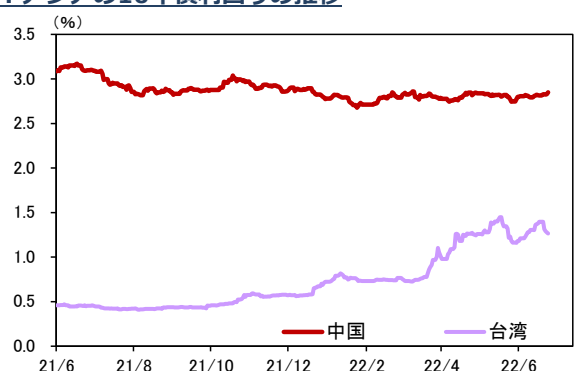


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

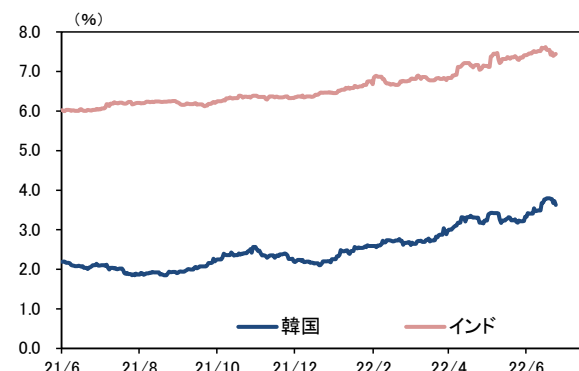


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

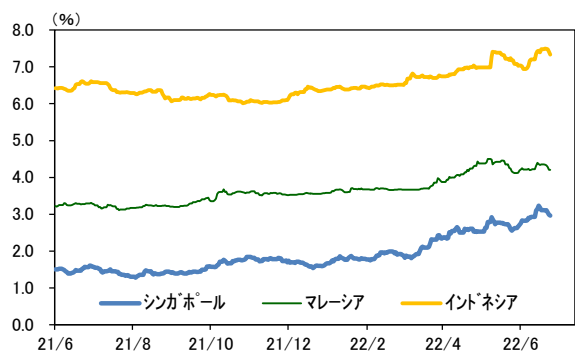
2. アジアの10年債利回りの推移



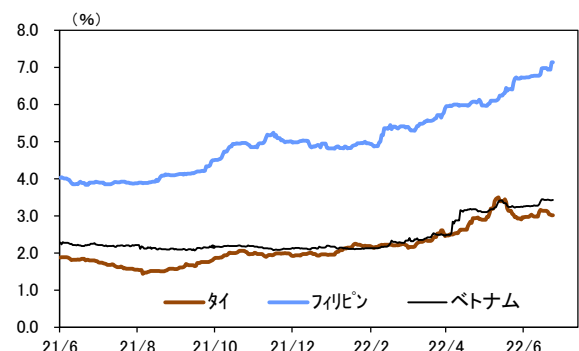
(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

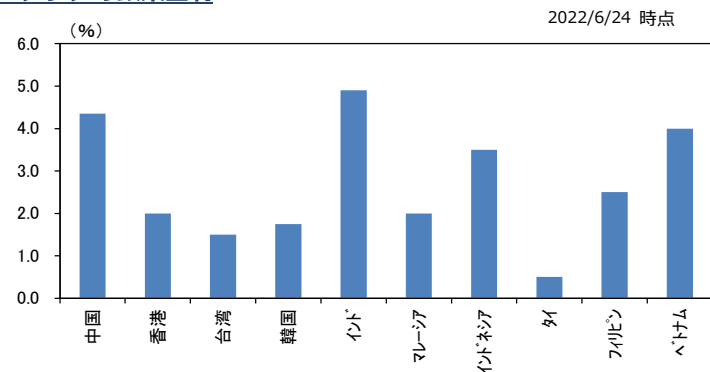


(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

3. アジアの政策金利



(注) 休日・休場の場合は、前営業日の値を使用
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

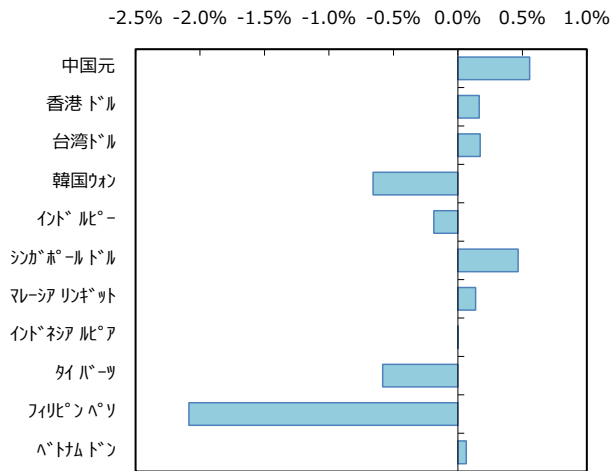
	政策金利 (単位：%)	
	現在	(前回)
中国	4.35	(4.60)
香港	2.00	(1.25)
台湾	1.500	(1.375)
韓国	1.75	(1.50)
インド	4.90	(4.40)
マレーシア	2.00	(1.75)
インドネシア	3.50	(3.75)
タイ	0.50	(0.75)
フィリピン	2.50	(2.25)
ベトナム	4.00	(4.50)

(注) 中国は1年物基準貸出金利、ベトナムはリファイナンス金利。シンガポールは外国為替相場を金融政策の手段としており、政策金利はない。

VI. アジア為替（対円、Bloombergベース）

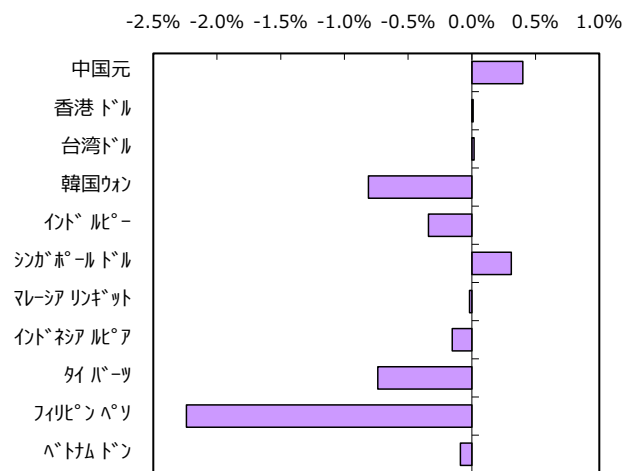
1. 前週比

対円での変化率（2022/6/17→2022/6/24）



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

対ドルでの変化率（2022/6/17→2022/6/24）

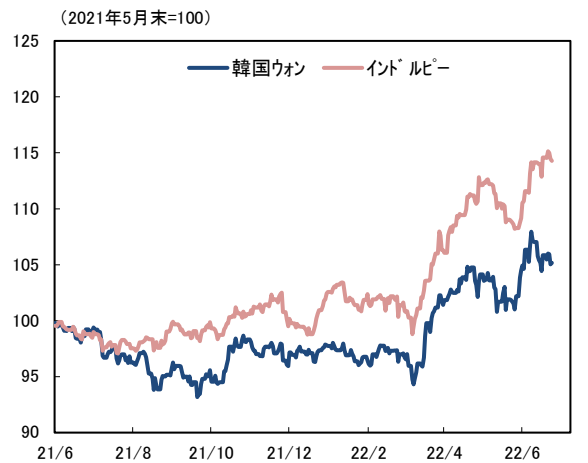


(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

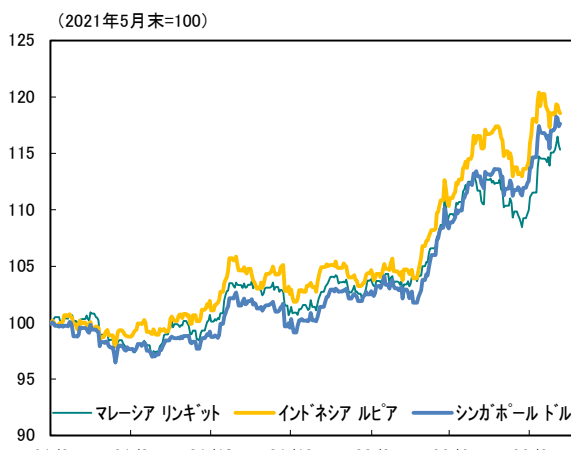
2. アジアの為替の推移（対円）



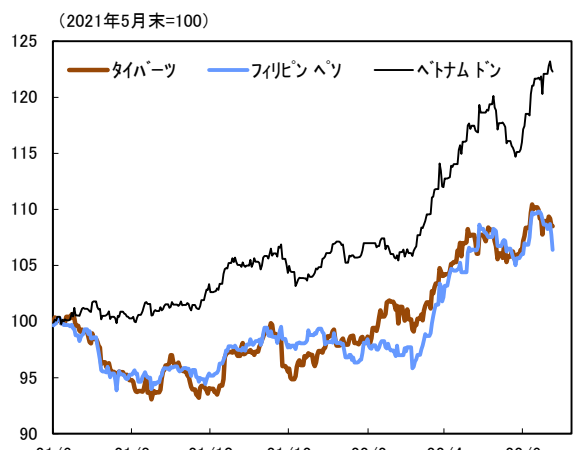
(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

(2022. 6. 27 作成)

※ 最終頁の「本資料に関してご留意していただきたい事項」を必ずご確認ください。

<本資料に関してご留意していただきたい事項>

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。また、請求目論見書については、販売会社にご請求いただければ、当該販売会社を通じて交付いたします。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ご購入時の費用…購入時手数料 **上限3.3%(税抜3.0%)**
- ◆ご換金時の費用…信託財産留保額 **上限0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆運用管理費用(信託報酬)…純資産総額に対して、**上限年率1.628%(税抜年率1.48%)**
- ◆その他の費用…監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。